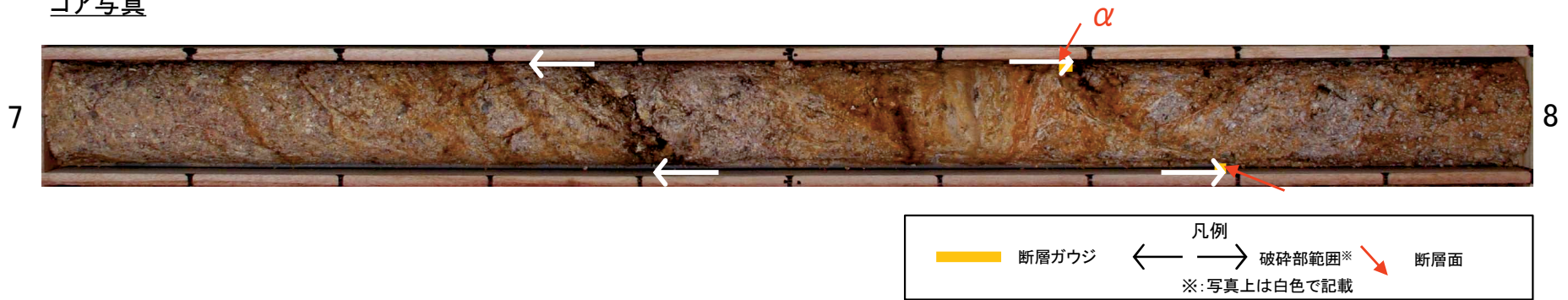


K断層 破碎部性状 H24-B'-3 深度7.37~7.70m(薄片作製位置)

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

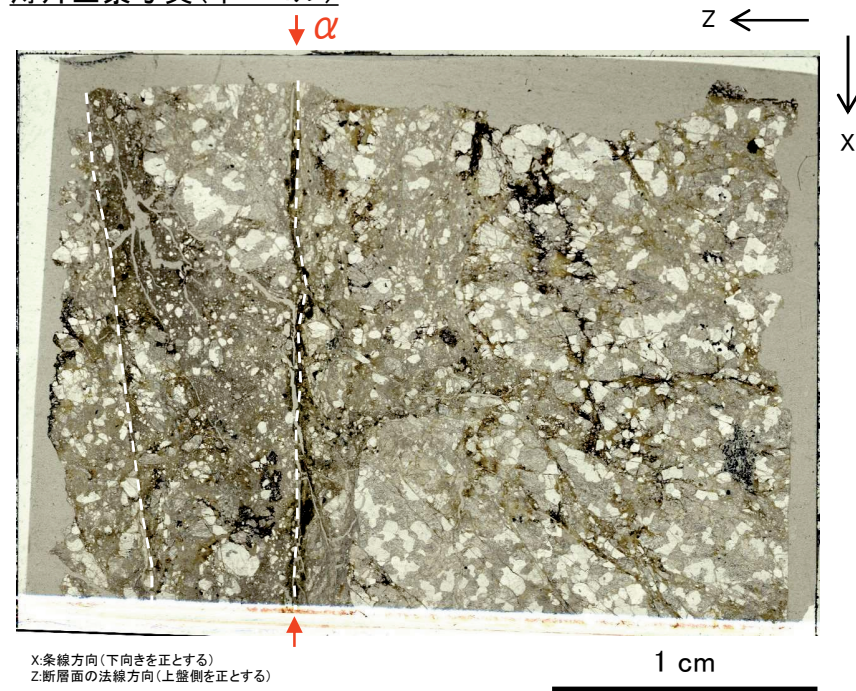
コア写真



薄片作製位置写真



薄片全景写真(単ニコル)

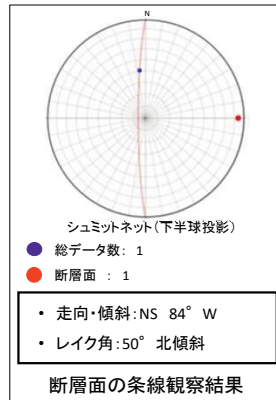


凡例
 断層面 ----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※
 ※: 写真上は白色又は黒色で記載

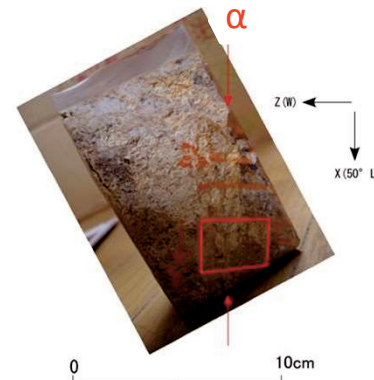
K断層 破碎部性状 H24-B'-3 深度7.37~7.70m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- ・H24-B'-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。
 - 岩片は少ない。

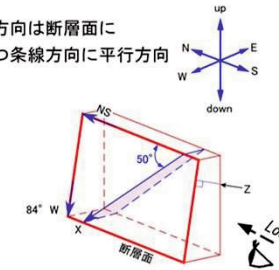
※断層面 α は最新活動面



最新活動ゾーン



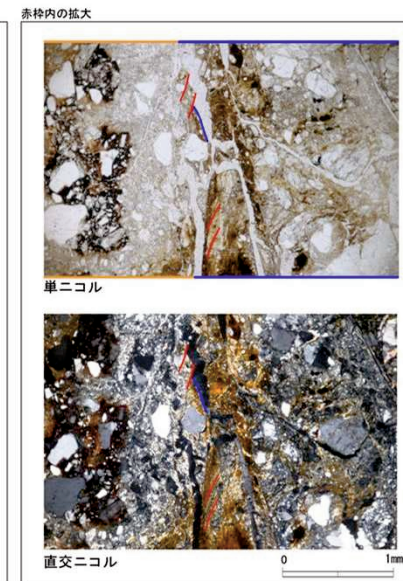
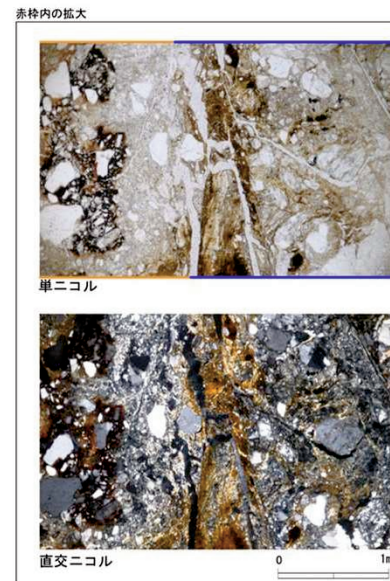
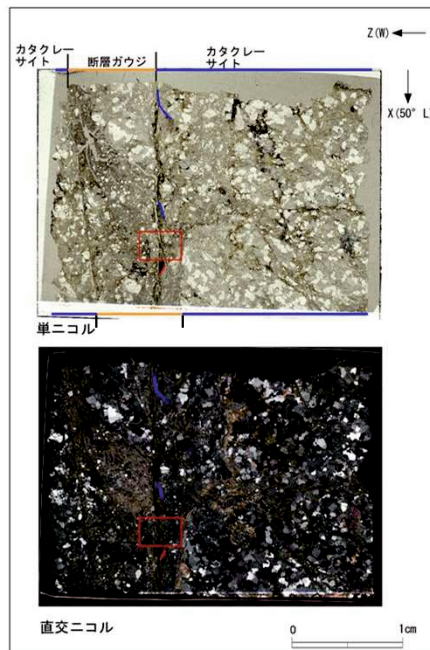
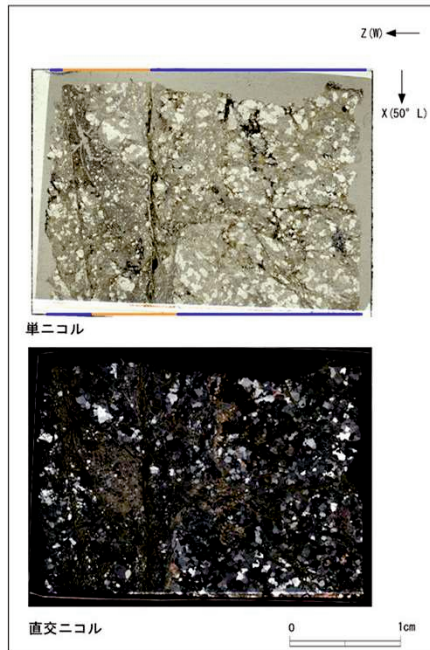
薄片の作製方向は断層面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜 NS84° W

X: 条線方向 (下向きを正とする)

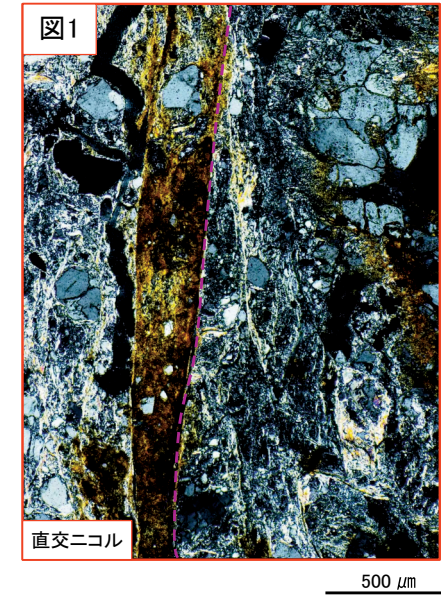
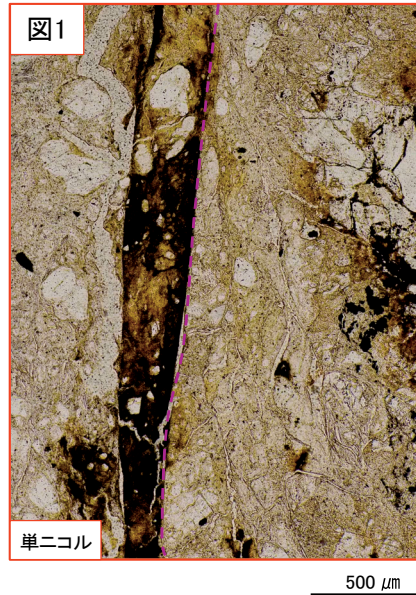
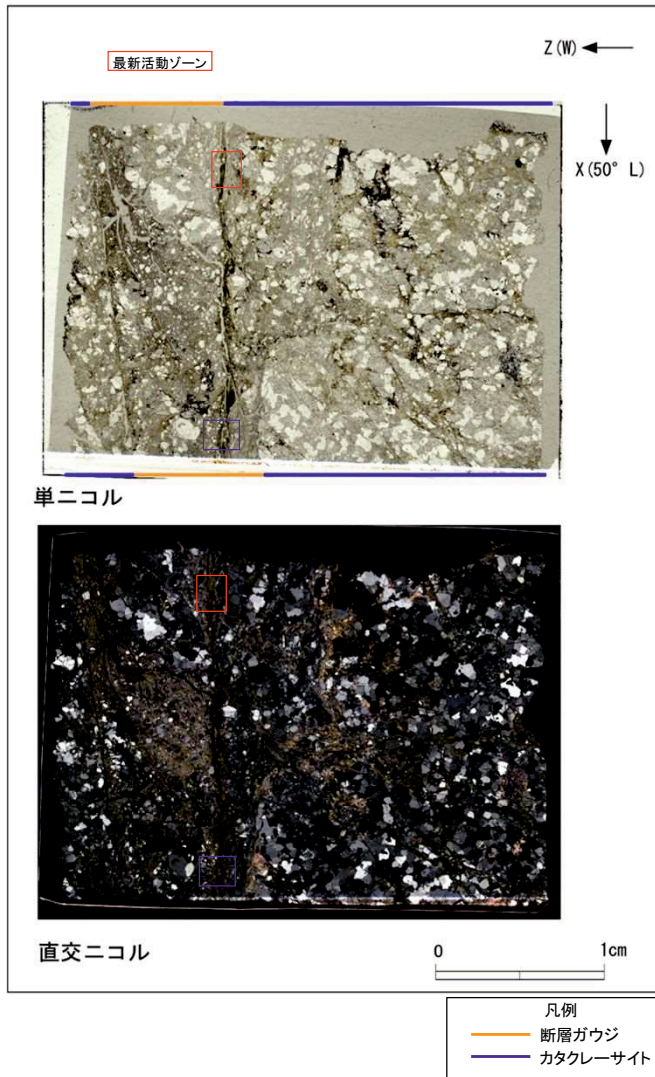
Z: 断層面の法線方向 (上盤側を正とする)



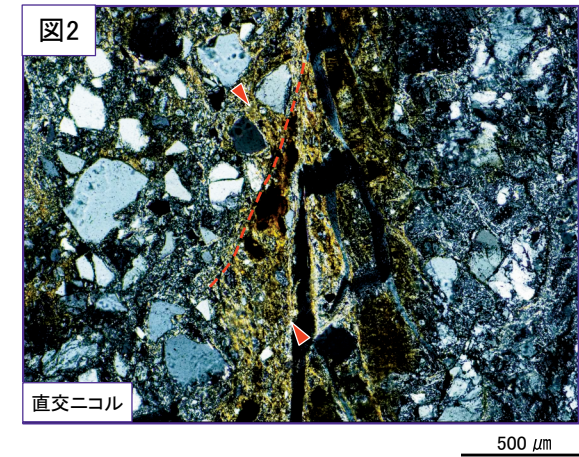
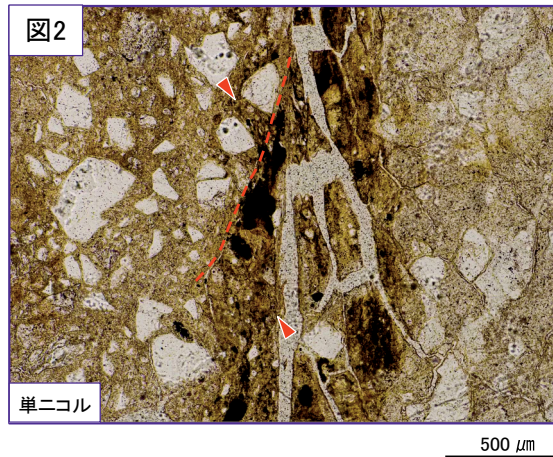
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

K断層 破碎部性状 H24-B'-3 深度7.37~7.70m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/2))

- ・最新活動ゾーンには, 以下の特徴が認められる。
 - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
 - 岩片は少ない。(図2)
 - 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



赤三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す
破線はR₁面を示す

K断層 破碎部性状 H24-B'-3 深度7.37~7.70m(断層岩区分の総合評価)

(肉眼観察結果 深度7.70m)

- 肉眼観察では、細粒部は、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良い。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破碎部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された細粒部は、原岩組織の有無が把握できないことから、断層ガウジとして扱うこととした。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	0.3	無

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

D-1トレンチ1-1ピット北面

K断層 破碎部性状 D-1トレンチ1-1ピット北面(肉眼観察による断層岩区分(1/4))

- ・区間①に対応する「Hj」との記載については、礫・シルト質砂状を呈するものである。やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

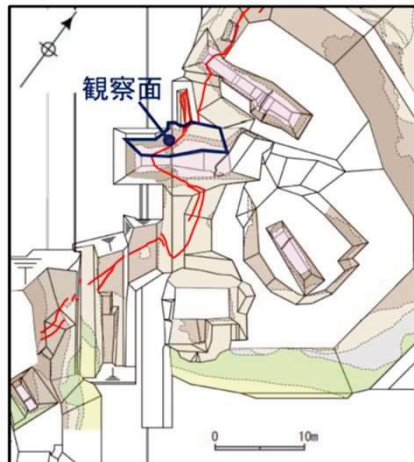
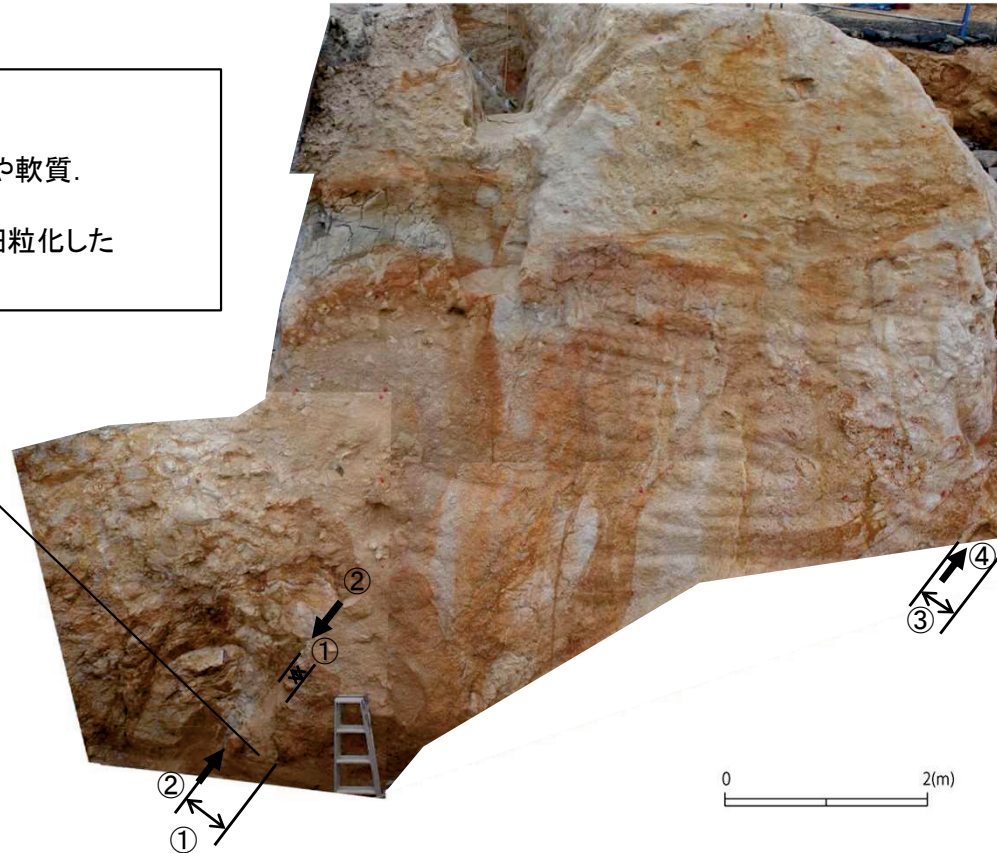
1-1ピット北面写真

WSW←

→ENE

H-1: 変質したカタクレーサイト. Hj

- ・灰白色(7.5YR8/2), 浅黄橙色(7.5YR8/4).
- ・礫・シルト質砂状・全体に変質を受け脱色・やや軟質.
- ・細粒部は網目状に分布する.
- ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は一部で認められる.



調査位置図

K断層 破碎部性状 D-1トレンチ1-1ピット北面(肉眼観察による断層岩区分(2/4))

- ・区間②に対応する「Hc-1」との記載については、粘土状を呈するものである。軟質であり、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

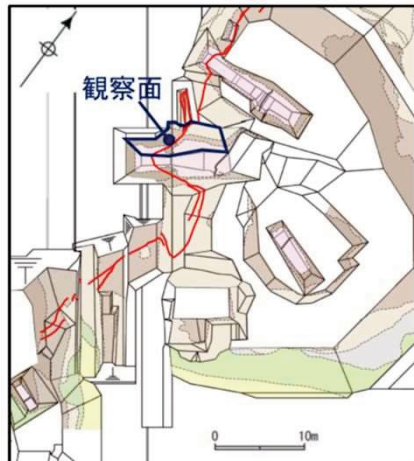
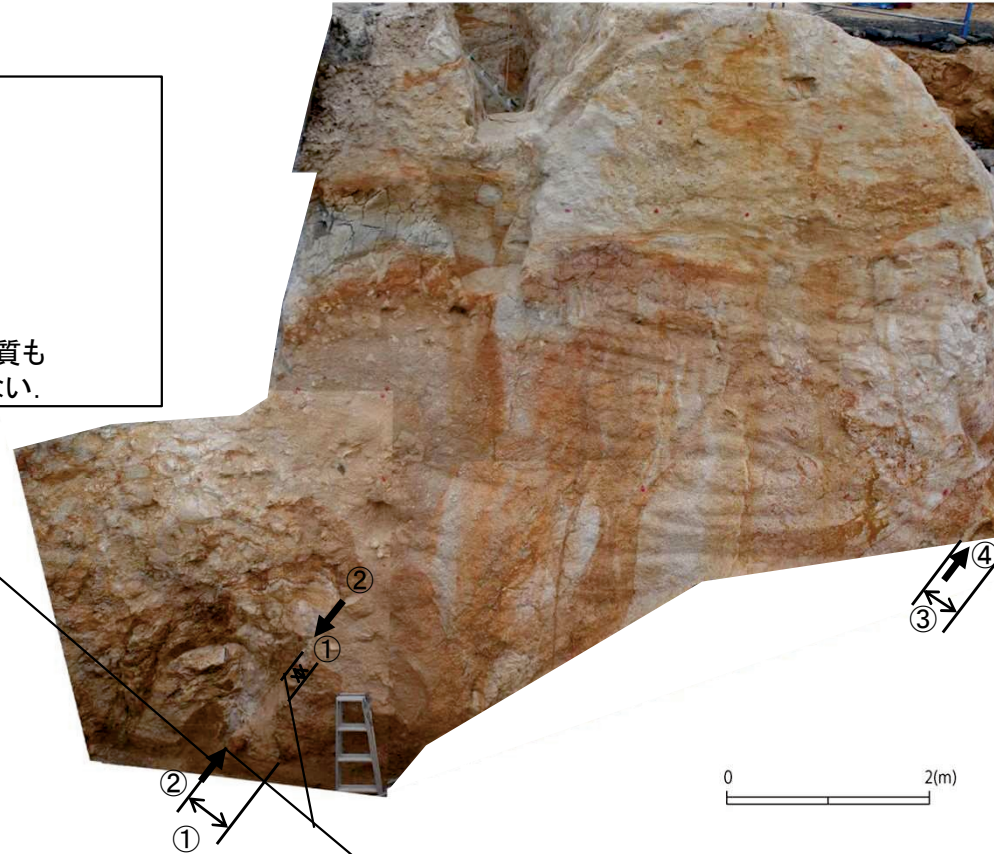
1-1ピット北面写真

WSW←

→ENE

S-1: せん断面. Hc-1

- ・粘土.
- ・幅3~9mm(代表的な幅5mm).
- ・灰白色(7.5YR8/2).
- ・断層ガウジ.
- ・若干湾曲するが、面はシャープ. 軟質.
- ・直線的
- ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。



調査位置図

f: N7° W/64° W

Hc-1

- ・灰褐色粘土. 幅2~6mm.
- ・断層ガウジ. 軟質.
- ・直線的.
- ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。

f: N3° W/61° W

Hc-1

- ・灰褐色粘土, 幅3~6mm.
- ・断層ガウジ, 軟質.
- ・直線的.
- ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。